

近年、気候変動により集中豪雨や台風による甚大な被害が頻発化しています。8月には線状降水帯により九州北部をはじめ広島県や長野県など各地で甚大な被害が発生しました。例年同月の降水量の3倍以上の雨が降ってしまうといった状況が起きている。

こうした災害は全国どこでも起こりうる状況にあり、本市としても市民の命を考え、誰もが安全に暮らしていける町であるために、行政としてやるべきことを鋭意進めていかななくてはならないと改めて強く感じています。

防災という観点からは、足利市中心部に架かる中橋周辺の堤防を嵩上げ^{かさ}することが求められています。この箇所は堤防が計画の高さから大きく切れ込んでいることから、水害の危険性が高い重要水防箇所に指定され、長年の懸案となっています。治水・防災上、早期の改修が必要であることは地元地区の皆様にもご理解をいただいています。

そして、堤防のかさ上げに伴い、老朽化が進む中橋の架け替えも必要となります。さらに、この中橋を北側に進む道路は、道路構造令による勾配（斜度）の点から JR 線の上を通り旧 50 号交差点へつなぐ跨線橋とすることになります。

これらは一体として事業認可を受け進めていかなければならない、との国・県の考え方があり、「堤防の嵩上げ^{かさ}」により防災上の危険箇所を解消していくためには足利市としてもこの方針に沿って進めていかななくてはなりません。

私はこの事業を中橋の架け替えだけで終わらせてはいけなく考えています。これを機に、市中心部の再生・活性化をいかに進めていくかを真剣に考え取り組まなければなりません。まちづくりには、橋の上を使ったイベントではなく、もっと地に足の着いた地道な取り組みこそ必要なのではないのでしょうか。

市中心部には、歴史文化都市・足利の原点である鑾阿寺や足利学校、織姫神社等が存在しています。他にはないこれら貴重な地域の財産を活かしながら、定住促進、空き店舗の利活用、市立美術館の活用など、商業や観光の振興にもつなげるための方向性と施策について、商工会議所や観光協会をはじめとする団体、地元地区や事業者の皆様と積極的に議論を深めていきたいと思っています。

この事業について、地元の皆様には様々なご意見・ご要望があり、何よりご不安があらうのことを申し訳なく感じています。それらを受け止め、国・県・JRに出向き、直接要望し意見を交わす機会を作っています。望ましい結果を出せるように全力で取り組みます。